

西家

18 世紀後半に建てられたここは、長崎街道で製菓店を営んでいた西家の住居でした。長崎港と九州北部の小倉を結ぶこの街道は、長崎港から大量の砂糖が輸入され、街道に沿って全国各地に運ばれたことから「シュガーロード」と呼ばれていました。

西家の家業はお菓子の生産で有名でした。「逸口香」は、サクサクした外見と空洞のある柔らかいパンケーキのような形をした地元の名物料理でした。中身が空洞にもかかわらず、甘くて強い香りがします。

「金華糖」は、江戸時代（1603～1867）に日本で大人気となった砂糖を使ったカラフルで装飾的なお菓子でした。「金華糖」を作るために、砂糖は木型を使ってさまざまな独特の形にプレスされました。当時、結婚式などのお祝いの贈り物として人気がありました。